



POCKET

サーマルカメラ
ユーザーマニュアル



お問い合わせ先

安全上の指示

これらの指示は、ユーザーが製品を正しく使用し、危険や財産損失を回避できるように保証することを目的としています。ご使用前に、安全情報をよくお読みください。

法規と規則

製品の使用にあたって、お住まいの地域の電気安全性に関する法令を厳密に遵守する必要があります。

輸送

- ◆ 輸送中は、デバイスを元のパッケージまたは類似したパッケージに梱包してください。
- ◆ 開梱後は、後日使用できるように、梱包材を保存しておいてください。不具合が発生した場合、元の梱包材を使用して工場に機器を返送する必要があります。元の梱包材を使用せずに返送した場合、破損が発生する恐れがありますが、その際に、当社は一切責任を負いません。
- ◆ 製品を落下させたり、物理的な衝撃を与えないでください。本器を電磁妨害から遠ざけてください。

電源

- ◆ 入力電圧は、IEC62368規格の制限電源（DC3.85V、570mA）を満たす必要があります。詳細情報に関しては技術仕様を参照してください。
- ◆ プラグが適切に電源ソケットに接続されていることを確認してください。
- ◆ 1台の電源アダプターに2台以上の機器を接続してはなりません。過負荷によって過熱したり、火災発生の危険があります。
- ◆ 正規メーカーより供給された電源アダプターを使用してください。電源の詳細な要件については、製品仕様を参照してください。

バッテリー

- ◆ 注意: バッテリーを不正な種別のものと交換すると爆発の危険があります。同一または同等のタイプのものとのみ交換してください。バッテリーのメーカーによって提供され

た指示に準拠して、使用済みバッテリーを処分してください。

- ◆ 不正な種別のバッテリーとの不適切な交換は、安全装置を無効にする場合があります（たとえば、一部のリチウムバッテリータイプの場合など）。
- ◆ バッテリーを火や高温のオーブンの中に投入したり、バッテリーを機械的に粉碎したり切断したりしないでください。爆発の原因となることがあります。
- ◆ バッテリーを非常に高温の環境に放置しないでください。爆発や、可燃性の液体およびガスの漏出を引き起こす可能性があります。
- ◆ バッテリーを極端に低い空気圧下に置かないでください。爆発したり、可燃性の液体やガスが漏出する恐れがあります。
- ◆ バッテリーのメーカーによって提供された指示に準拠して、使用済みバッテリーを処分してください。
- ◆ 内蔵バッテリーは取り外しできません。修理については必要に応じてメーカーにお問い合わせください。
- ◆ バッテリーを長期保存する場合は、3か月に一度はフル充電して、バッテリーの品質を保つようにしてください。これを怠った場合、破損の原因となります。
- ◆ 認定メーカーのバッテリーをご使用ください。バッテリーの詳細な要件については、製品仕様を参照してください。
- ◆ 付属の充電器で種類が異なるバッテリーを充電しないでください。充電中は、充電器の2m以内に可燃物がないことをご確認ください。
- ◆ デバイスの電源がオフで、RTCバッテリーが満充電されている状態では、時間設定は6ヶ月間保持できます。
- ◆ 初回使用時は、電源オフの状態ですら3時間以上充電してください。
- ◆ リチウムバッテリーの電圧は3.85V、バッテリー容量は2100mAhです。
- ◆ バッテリーはUL2054によって認定されています。

メンテナンス

- ◆ カメラの電源が入っているときは、感電のおそれがあるのでメンテナンスを行わないでください。製品が正しく動作しない場合、販売店または最寄りのサービスセンターに連絡してください。承認されていない修理や保守行為による問題について、当社はいかな

る責任も負いません。

- ◆ 必要ならば、エタノールを少量含ませたきれいな布でデバイスを静かに拭きます。
- ◆ メーカーが指定していない方法で使用方法、デバイスが提供する保護機能が損なわれる恐れがあります。
- ◆ USB 3.0 PowerShareポートの電流の制限は、PCブランドによって異なる場合があります、非互換性の問題が発生する可能性があることに注意してください。したがって、USBデバイスがPCのUSB 3.0 PowerShareポート上で認識されない場合は、通常のUSB 3.0またはUSB 2.0ポートを使用することをお勧めします。
- ◆ 本カメラは、画質と測定精度を最適化するために、定期的に自己キャリブレーションを実行します。このプロセスで、画像が短時間静止し、検知器の前でシャッターが動く際に「カチッ」という音が聞こえます。起動中や、非常に低温または高温の環境では、自己キャリブレーションがより頻繁に実行されます。これは、カメラの最適な性能を確保するための正常な動作です。

使用環境

- ◆ 実行環境がデバイスの要件を満たしていることを確認します。動作温度は-10°C～50°C (14°F～122°F)で、動作湿度は95%以下です。
- ◆ デバイスは、乾燥して換気の良い環境に配置してください。
- ◆ デバイスを強い電磁波や埃の多い環境にさらさないでください。
- ◆ レンズを太陽や極端に明るい場所に向けしないでください。
- ◆ レーザー装置を使用している場合は、デバイスのレンズがレーザービームにさらされていないことを確認してください。焼損するおそれがあります。
- ◆ レンズを太陽や極端に明るい場所に向けしないでください。
- ◆ このデバイスは屋内および屋外での使用に適していますが、濡らさないようにご利用ください。
- ◆ 防水レベルはIP54です。
- ◆ このデバイスは、屋内使用専用です。

緊急

- ◆ デバイスから煙や異臭、異音が発生した場合、すぐに電源を切り、電源ケーブルを抜いて、サービスセンターにご連絡ください。

キャリブレーションサービス

- ◆ メンテナンスポイントに関する情報については、最寄りの販売店にお問い合わせください。より詳細な較正サービスについては、<https://www.hikmicrotech.com/en/support/>を参照してください。

テクニカルサポート

- ◆ <https://www.hikmicrotech.com/en/contact-us.html> ポータルは、HIKMICRO のお客様が HIKMICRO 製品を最大限に活用するのに役立ちます。ポータルから、サポートチーム、ソフトウェアとドキュメント、サービスの連絡先などにアクセスできます。

限定的保証

製品保証ポリシーについては、QRコードをスキャンしてください。



メーカー住所

310052 中国浙江省杭州市滨江区西興地区段鳳通り399号2棟ユニットB 313号室

Hangzhou Microimage Software Co., Ltd.

法令順守通知

本サーマルシリーズ製品は、アメリカ合衆国、欧州連合、英国などワッセナー・アレンジメントの会員国を含むがそれだけに限定されない各国・各地域で、輸出管理の対象となる可能性があります。サーマルシリーズ製品を外国へ転送・輸出・再輸出する場合は、貴社の法務・コンプライアンス部門もしくは自国の政府機関に、輸出ライセンスの条件についてご確認ください。

記号の定義

本書で使用されている記号は以下のように定義されます。

記号の	説明
 危険	回避しないと、死亡または重傷を招く可能性のある危険な状況を示します。
 注意	潜在的に危険となりうる状況を表しており、防止できなかった場合、機器の損傷、データの消失、性能劣化など、予測不能な結果が生じる可能性があります。
 注意	本文中の重要点を強調したりそれを補う追加情報を提供します。

目次

第1章 概要.....	1
1.1 ご利用の皆様へ	1
1.2 デバイスの説明	1
1.3 主な機能.....	1
1.4 外観.....	2
第2章 準備.....	5
2.1 デバイスの充電	5
2.2 電源オン/オフ.....	5
2.2.1 手動スリープ	6
2.2.2 自動電源オフの設定	6
2.3 操作方式	6
2.4 メニューの内容	6
第3章 シーンモードで開始（該当する場合）	8
3.1 シーンモードの選択.....	8
3.2 （オプション）シーンモードパラメータを設定する	12
第4章 正確な温度測定.....	14
4.1 温度測定パラメータの設定	14
4.1.1 距離の調整	14
4.1.2 放射率の調整	15
4.1.3 （オプション）その他のパラメータの調整	15
4.2 測定ツールの設定.....	15
4.3 測定ツールの消去.....	16

第5章 アラームの設定.....	17
第6章 表示設定	19
6.1 画面輝度の設定	19
6.2 自動回転の設定	19
6.3 SuperIRの設定.....	19
6.4 画像モードの設定.....	19
6.5 レベルとスパンの調整.....	21
6.6 デジタルズームの調整.....	22
6.7 オンスクリーン情報の表示	22
第7章 マクロモードの設定	23
第8章 写真と動画	24
8.1 画像キャプチャー.....	24
8.2 ビデオ録画	26
8.3 アルバムの管理	26
8.4 ファイルの表示	27
8.5 ファイルの管理	28
8.6 ファイルのエクスポート	30
8.6.1 HIKMICRO Viewer経由でエクスポート（該当する場合）	30
8.6.2 PCを介してエクスポート	30
第9章 デバイス接続.....	32
9.1 デバイスのスクリーンをPCにキャスト	32
9.2 HIKMICRO Viewerへのデバイスの接続.....	32
9.2.1 Wi-Fi経由の接続（該当する場合）	32
9.2.2 ホットスポット経由の接続（該当する場合）	34

第10章 システム設定.....	36
10.1 時刻と日付の設定	36
10.2 単位の設定	36
10.3 言語を設定する	36
第11章 メンテナンス.....	37
11.1 デバイス情報を表示.....	37
11.2 デバイスのアップグレード	37
11.2.1 アップグレードファイルによるデバイスのアップグレード	37
11.2.2 HIKMICRO Viewerを介してデバイスをアップグレード	37
11.3 デバイスの復元	38
11.4 操作ログを保存	38
11.5 ストレージのフォーマット	38
11.6 キャリブレーションについて	38
第12章 FAQ	40

第1章 概要

1.1 ご利用の皆様へ

このマニュアルでは、複数のカメラモデルの機能について説明します。同じシリーズでもカメラモデルによって機能が異なるため、このマニュアルにはお使いのカメラモデルに当てはまらない記述や説明が含まれている場合があります。

あるシリーズのすべてのカメラモデルが、このマニュアルに記載されている（または記載されていない）モバイルアプリケーション、ソフトウェア、およびそれらのすべての機能をサポートしているわけではありません。より詳細な情報についてはアプリケーションおよびソフトウェアのユーザーマニュアルを参照してください。

このマニュアルは定期的に更新されます。そのため、このマニュアルには、最新のファームウェア、モバイルクライアント、およびソフトウェアの新機能に関する情報が含まれていない可能性があります。

1.2 デバイスの説明

ポケットサーモグラフィカメラは、ビジュアル画像とサーマル画像の両方に対応するカメラです。温度測定、ビデオ録画、スナップショット撮影、アラーム機能を備えており、Wi-Fiおよびホットスポット経由でアプリケーションまたはソフトウェアクライアントに接続できます。内蔵の高感度IR検出器と高性能センサーが温度差を検出し、リアルタイムで温度を測定します。

このデバイスは使いやすく、人間工学に基づいた設計を採用しています。建物の検査や空調設備はもちろん、電気・機械設備のメンテナンスにも幅広く利用されています。

1.3 主な機能

SuperIR

カメラはSuperIRをサポートし、オブジェクトのアウトラインを強調します。一部のカメ

ラモデルは、ライブビューでリアルタイムのSuperIR画像を表示できます。

シーンモード（該当する場合）

カメラは、さまざまな検出対象とシナリオに合わせて複数のシーンモードをサポートしています。一部のシーンモードでは、インテリジェント機能、SuperSceneがサポートされています。異常検出を支援し、ライブビュー インターフェイスの上にプロンプトを表示できます。

温度測定

カメラはリアルタイムで温度を検出し、画面に表示します。

画像モード

サーマル画像とビジュアル画像を融合して表示することができます。サーマル、融合、PIP、ブレンディング、およびビジュアルが選択可能です。

パレット

カメラは、さまざまなターゲットやユーザーの好みに合わせて複数のカラーパレットをサポートしています。

クライアントソフトウェアの接続（該当する場合）

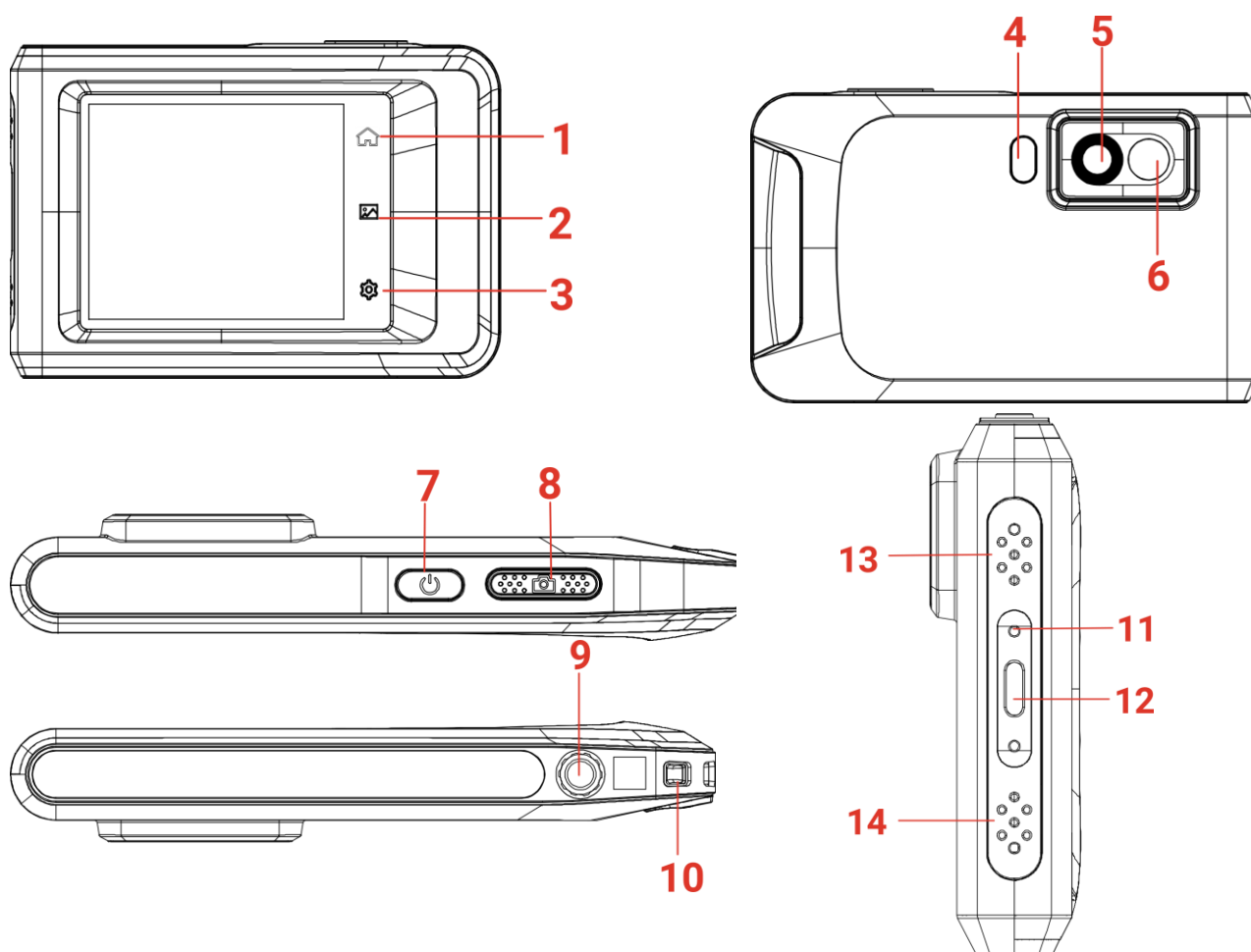


お使いのモデルがWi-Fiとホットスポットをサポートする場合、QRコードをスキャンしてHIKMICRO Viewerアプリをダウンロードし、ライブビュー、スナップショット撮影、動画撮影などを行います。

ファイルを分析するには、PCにHIKMICRO Analyzer

(<https://www.hikmicrotech.com/en/industrial-products/hikmicro-analyzer-software.html>) をダウンロードしてください。

1.4 外観



番号	説明	機能
1	ホームキー	タップするとライブビューインターフェイスに戻ります。
2	ファイルキー	タップするとアルバムに移動します。
3	設定キー	タップすると設定インターフェイスに進みます。
4	フラッシュライト	対象物を照らし、点滅アラームを出力します。
5	サーマルレンズ	サーマル画像を表示します。
6	ビジュアルレンズ	ビジュアル画像を表示します。
7	電源キー	◆ 長押し：デバイスの電源オン/オフ。 ◆ 短押し：手動スリープ/デバイスを起動します。
8	キャプチャーキー	ライブビューで： ◆ 短押し：スナップショットの撮影/録画の停止。

番号	説明	機能
		◆ 長押し：録画の開始。 メニューモードで：ライブビューインターフェイスに戻ります。
9	三脚マウント	三脚を取り付けます。
10	ストラップ取付ポイント	ストラップを取り付けます。
11	インジケーター	デバイスの充電状態を表示します。 ◆ 赤で点灯：正常に充電 ◆ 赤で点滅：充電に異常あり ◆ 緑色で点灯：満充電
12	Type-C インターフェイス	付属の USB ケーブルで、デバイスを充電したり、ファイルをエクスポートすることができます。
13	ブザー	警報音を出力します。
14	マイク	音声録音。

**注意**

本カメラは、画質と測定精度を最適化するために、定期的に自己キャリブレーションを実行します。このプロセスで、画像が短時間静止し、検知器の前でシャッターが動く際に「カチッ」という音が聞こえます。デバイスの調整中は、画面の上部中央に「サンプル調整中...」というプロンプトが表示されます。起動中や、非常に低温または高温の環境では、自己キャリブレーションがより頻繁に実行されます。

第2章 準備

2.1 デバイスの充電

カメラにはバッテリーが内蔵されています。パッケージに付属のUSBケーブルとカメラのType-Cインターフェイスを使用してカメラを充電することをお勧めします。他のメーカーのUSB-C to USB-Cケーブルは使用しないでください。

電源アダプター（別売り）は次の規格を満たす必要があります。

- ◆ 出力電圧/電流：5 VDC/2 A
- ◆ 最小電源出力 10 W

電源インジケータの充電状態を確認します。

- ◆ 赤で点灯：正常に充電
- ◆ 赤で点滅：充電に異常あり
- ◆ 緑で点灯：満充電

**注意**

- ◆ 最大充電速度を達成するには、充電器から供給される電力が、無線機器に必要な最小 8W から最大 10W の範囲でなければなりません。
- ◆ カメラを長期間使用せずに過放電した場合は、電源をオンにする前に少なくとも 30 分間充電することをお勧めします。
- ◆ 充電とデータ転送には、パッケージに付属の USB ケーブルを使用することをお勧めします。

2.2 電源オン/オフ

電源オン

⏻を3秒以上長押しして、デバイスの電源を入れます。デバイスのインターフェイスが安定すると、目標を観察できます。

**注意**

電源を入れてからデバイスを使用できるようになるまで、30 秒以上かかる場合があります。

電源オフ

デバイスの電源がオンの時、を約3秒間長押しするとデバイスの電源がオフになります。

2.2.1 手動スリープ

デバイスの電源が入っているときに、を1回押すとスリープモードがオンになり、をもう一度押すとデバイスが起動します。

2.2.2 自動電源オフの設定

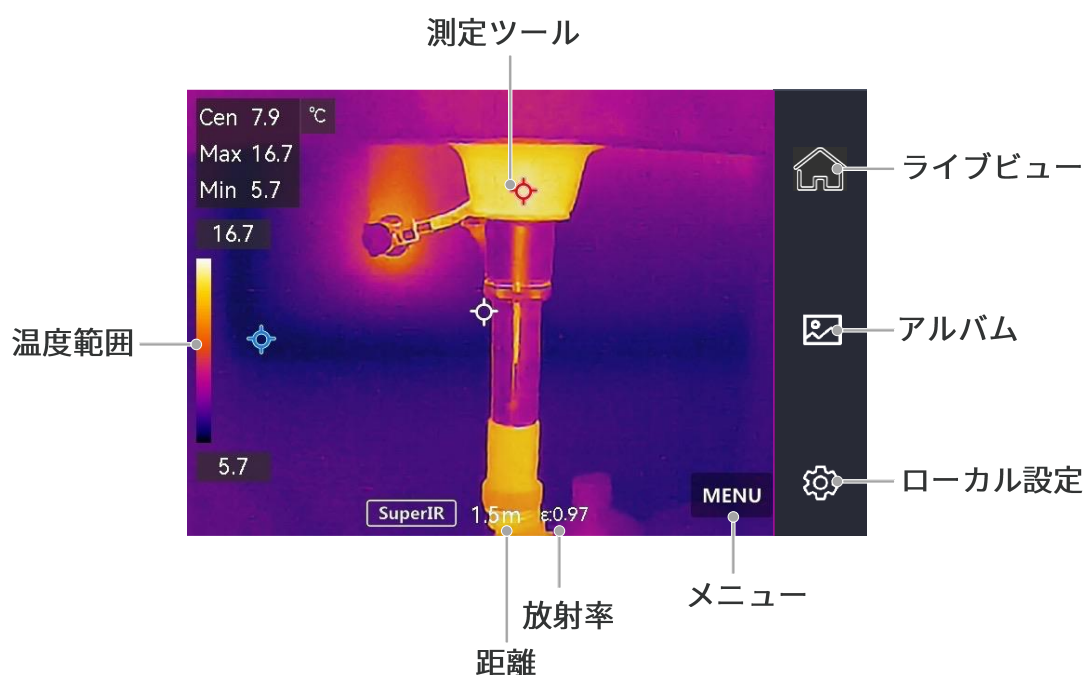
をタップし、デバイス設定 > 自動電源オフを開き、必要に応じてデバイス自動シャットダウン時間を設定します。

2.3 操作方式

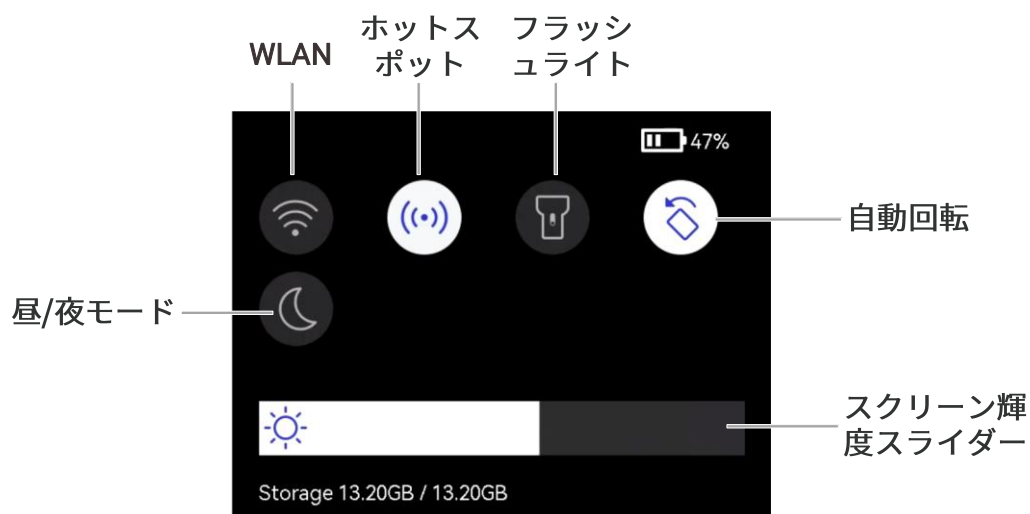
このデバイスは、タッチスクリーン操作に対応しています。画面をタップして、パラメーター設定などの設定を行うことができます。

2.4 メニューの内容

ライブビュー



スワイプダウンメニュー



注意

このマニュアルは定期的に更新されるため、インターフェイスは実際のカメラモデルのバージョンと多少異なる場合があります。実際のカメラを参照してください。

第3章 シーンモードで開始（該当する場合）

迅速な異常検出を行うために、[シーン] モードには、さまざまな検出シナリオに対応するためのいくつかのプリセットテンプレートが含まれています。ユーザーは適切なシーンを選択したり、対象物に応じてシーンをカスタマイズしたり、必要に応じて高温アラームを設定したりできます。

シーンモードは、シリーズの一部のモデルでのみサポートされます。実際のデバイスとそのソフトウェアバージョンを参照してください。

1. 適切なシーンモードを選択します。詳細については、3.1 シーンモードの選択を参照してください。
2. （オプション）必要に応じてシーンモードのパラメータを微調整します。詳細については、3.2 （オプション）シーンモードパラメータを設定するを参照してください。
3. （オプション）必要に応じてアラームを設定します。詳細については、第5章 アラームの設定を参照してください。
4. ライブビューインターフェイスで検出結果を観察します。

3.1 シーンモードの選択

ライブビューで、 > [シーン] をタップして、適切なシーンモードを選択します。



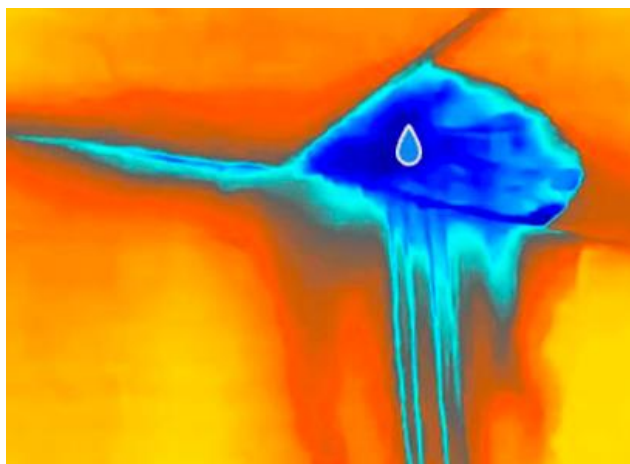
注意

ほとんどの場合、パラメータのデフォルト値が機能します。必要に応じて関連パラメータを微調整したい場合は、3.2 （オプション）シーンモードパラメータを設定するを参照してください。

水漏れ

建物内の天井、壁、床の漏水を点検します。

SuperSceneテクノロジーにより、水漏れ検出時に異常を迅速に認識することができます。[SuperScene] が有効になっていて水漏れの異常が検出されると、[疑似] がライブビューの上部に表示されます。

**注意**

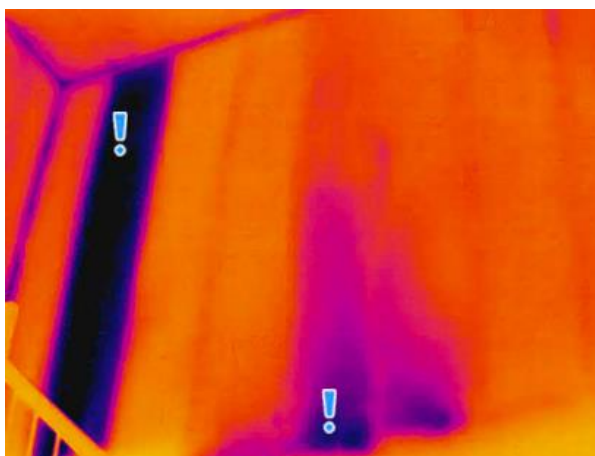
- ◆ 漏れ異常のあるエリアの温度差が微妙すぎて認識できない場合などには、報告漏れや誤った報告が発生します。
- ◆ SuperScene 機能に基づいて 2 回目の診断を行うことをお勧めします。SuperScene 機能のアルゴリズムを更新中です。
- ◆ このモードでは画像モードの切り替えはサポートされていません。

断熱

建物の壁や天井の屋内断熱不足を検出するために、一般ユーザーはこのシーンを適用できます。

SuperSceneテクノロジーにより、断熱検出時に異常を迅速に認識することができます。

[SuperScene] が有効になっていて断熱の異常が検出されると、**[疑似]** がライブビューの上部に表示されます。



**注意**

- ◆ 漏れ異常のあるエリアの温度差が微妙すぎて認識できない場合などには、報告漏れや誤った報告が発生します。
- ◆ SuperScene 機能に基づいて 2 回目の診断を行うことをお勧めします。SuperScene 機能のアルゴリズムを更新中です。
- ◆ このモードでは画像モードの切り替えはサポートされていません。

床暖房

床暖房システムの故障を検知し、観察します。

電氣的な故障

配線、回路、電気部品、終端器などの故障を検知し、観察します。

マクロモード

PCBなどの精密部品の故障を詳細に検知し、観察します。

このモードを選択する前に、マクロレンズを購入してカメラに取り付けてください。

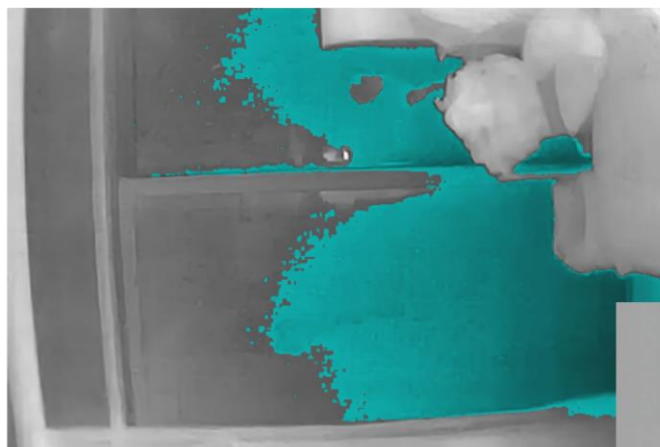
ソーラーパネル

ソーラーパネルの故障を検知し、観察します。

断熱プロ

建物の壁や天井の屋内断熱異常を検知するために、専門ユーザーはこのシーンを適用できます。追加パラメータ**【屋内温度】**、**【屋外温度】**および **【断熱レベル】** が必要です。

屋内温度が屋外温度以下の場合、検知された断熱レベルがプリセット値を超えるエリアでは、**【断熱レベル】** がシアン色でマークされます。屋内温度が屋外温度より高い場合、検知された断熱レベルがプリセット値を下回るエリアでは、**【断熱レベル】** がシアン色でマークされます。

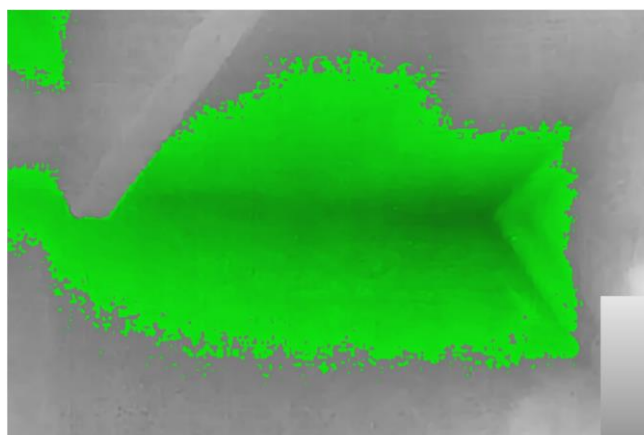
**注意**

- ◆ 屋内温度：現在の屋内温度。
- ◆ 屋外温度：現在の屋外温度。
- ◆ 断熱レベル：0 から 100 までの整数。新しい建物の場合の典型的な値は 60～80% です。
- ◆ このモードでは、画像モードの切り替えと SuperIR 機能はサポートされません。

結露

屋内の潜在的な湿気の問題を検査します。**[相対湿度]**、**[周囲温度]**、**[RHしきい値(%)]** を設定することが前提条件です。

検出された相対湿度が **[RHしきい値]** を超えると、結露不足のエリアは緑色でマークされます。

**注意**

- ◆ 相対湿度：現在の相対湿度。
- ◆ 周囲温度：現在の気温。

- ◆ **RH しきい値**：対象物表面の湿度の上限。相対湿度 100%は、空気中の水蒸気が液体の水として凝縮することを意味し（＝露点）、相対湿度が約 70%以上になるとカビが発生する可能性があります。
- ◆ **【相対湿度】と【周囲温度】**の値は、湿度計と温度計からそれぞれ取得できます。
- ◆ このモードでは、画像モードの切り替えと SuperIR 機能はサポートされません。

カスタム

ユーザーはモードをカスタマイズして、将来使用するために必要な温度測定パラメータを保存できます。3.2（オプション）シーンモードパラメータを設定するを参照してください。

3.2（オプション）シーンモードパラメータを設定する

より正確な検出結果を得るために、 > [シーン] で関連パラメータを微調整することができます。



注意

パラメータはシーンによって異なります。

パラメータ	説明
放射率	ターゲットに応じて放射率を設定します。
パレット	熱画像は温度差によって作成されます。パレットは温度を表す色です。ユーザーは好みの色に応じてパレットを選択できます。 左側の温度スケールで、画像内の色と温度の関係を参照できます。6.5 レベルとスパンの調整を参照してください。
温度範囲	温度測定範囲を選択します。 【自動切り替え】 モードでは、デバイスは温度を検出し、温度測定範囲を自動的に切り替えることができます
アラーム	対象物の温度が設定されたアラームルールをトリガーすると、設定された方法でユーザーに通知できます。第 5 章 アラームの設定を参照してください。

- 色分布 用途シーンに合わせて、【リニア】 および 【ヒストグラム】 モードを選択できるため、より詳細な情報を表示できます。
- ◆ リニア：低温の背景にある小さな高温の対象物を検出し、ケーブルコネクタなどの高温の対象物の詳細を強調して表示します。
 - ◆ ヒストグラム：高温エリア内の小さな低温の対象物を検出し、温度差を強調して、低温の物体の詳細（亀裂など）を記録します。

第4章 正確な温度測定

対象物のより正確でリアルタイムの温度を取得するために、ユーザーは必要に応じてスポットツールと高温アラームを設定できます。

1. シーンモードのあるモデルの場合は、測定設定を高速化するには、適切なシーンを選択してください。第3章 シーンモードで開始（該当する場合）を参照してください。
2. ライブビューの左上隅で温度の値を確認します。精度が十分でない場合は、温度測定パラメータを微調整します。4.1 温度測定パラメータの設定を参照してください。
3. スポットツールを設定して、最高/最低/中心温度スポットのリアルタイム温度を取得します。4.2 測定ツールの設定を参照してください。
4. （オプション）高温の対象物のアラームを設定します。第5章 アラームの設定を参照してください。
5. ライブビューインターフェイスで温度結果を観察します。

4.1 温度測定パラメータの設定

4.1.1 距離の調整

カメラと観測対象物間の距離は、温度結果の精度に影響します。温度を測定する前に、まず距離を設定する必要があります。

カメラと対象物間のおおよその距離に応じて事前に定義されたテンプレートを使用する場合は、**[近景]/[中央]/[遠景]** モードを利用できます。

より正確な結果を求める場合は、**[カスタム]** モードを利用できます。

1. ライブビューで、 > **[温度測定設定]** > **[距離]** をタップします。
2. 距離モードを選択します。

**注意**

ユーザーは、距離ホイールをスクロールして、ライブビューで温度測定距離をすばやく調整できます。

4.1.2 放射率の調整

放射率は測定精度に直接影響するため、対象物質の特性に応じて再調整する必要があります。

◆ シーンモードがあるモデルの場合：

- 1)  > シーンに移動して、シーンを選択します。
- 2) シーン設定インターフェイスで、推奨値を選択するか、カスタマイズします。
- 3) くをタップして保存し、終了します。

◆ シーンモードのないモデルの場合：

- 1)  > 温度測定設定 > 放射率に移動します。
- 2) 推奨値を選択するか、カスタマイズします。
- 3) くをタップして保存し、終了します。

4.1.3 （オプション）その他のパラメータの調整

温度測定の精度を向上させるには、 > [温度測定設定] で温度測定パラメータを微調整します。

パラメータ	説明
反射温度	シーン内に高温の物体（対象物以外）があり、対象物の放射率が低い場合は、対象物は高温の物体を反射し、精度が低下します。 反射温度を高温物体の値として使用して、干渉を打ち消してください。
湿度	カメラが置かれている現在の環境の湿度を設定します。

4.2 測定ツールの設定

現在のシーンの最低温度、最高温度、中心温度を測定する測定ツールを設定することができます。

1. メニューをタップし、 を選択します。
2. 必要に応じて、タップして温度測定ツールを選択します。[最高] 、[最低] 、[中心点]  を選択できます。

3. 戻るをタップして保存し、終了します。

**注意**

- ◆ 画面左上には、最低温度、最高温度、中心温度が表示されます。削除するには、ツールをもう一度タップします。
- ◆ 温度測定の結果が非常に不正確な場合は、 > [温度測定設定] > [SuperTemp] で [SuperTemp] ボタンをオフにします。
SuperTemp 機能は一部のモデルでのみサポートされます。

4.3 測定ツールの消去

 > [デバイス設定] > [デバイスの初期化] > [すべての測定ツールを削除] で、設定されたすべての測定ツールを消去できます。ウィンドウには、[設定成功] というプロンプトがポップアップ表示されます。

**注意**

パレットもデフォルト設定に復元されます。

第5章 アラームの設定

目標の温度が設定された高いアラームルールに合致すると、デバイスは、音声アラームやフラッシュアラームを発するなど、設定されたアクションを実行します。

シーンモードがあるモデルの場合：

1.  > [シーン] でシーンモードを選択します。
2. [シーン] 設定インターフェイスで、[アラーム] をタップして、[アラーム設定] インターフェイスを表示します。

**注意**

一部のシーンのみアラームをサポートします。実際のデバイスを参照してください。

3. [温度アラーム] ボタンを有効にします。
4. [アラームしきい値] をタップし、ホイールをスクロールして温度の上限を設定します。
5. くをタップして保存し、閉じます。

**注意**

目標温度が [アラームしきい値] の設定値を超えた場合、ライブビューの左上にある [最大] 温度の行が赤でマークされます。

6. (オプション)  > [温度測定設定] > [アラームリンク] をタップして、音やフラッシュライトによるアラームを設定します。

**注意**

[アラームリンク] は、トリガーされたすべてのアラームで機能する共通パラメータです。

シーンモードのないシーンの場合：

1.  > [温度測定設定] > [アラーム] の順に移動します。
2. [温度アラーム] を有効にし、アラームパラメータを設定します。
3. くをタップして保存し、閉じます。

**注意**

目標温度が【アラームしきい値】の設定値を超えた場合、ライブビューの左上にある【最大】温度の行が赤でマークされます。

4. （オプション）【アラームリンク】に移動して、サウンドやフラッシュライトによるアラームを設定します。

**注意**

【アラームリンク】は、トリガーされたすべてのアラームで機能する共通パラメータです。

第6章 表示設定

6.1 画面輝度の設定

[ローカル設定] > [表示設定] > [画面の輝度] に移動して、画面の輝度を調整します。または  をタップしドラッグして画面の輝度を調整します。



6.2 自動回転の設定

スワイプダウンメニューで自動回転を有効にします。

または、ローカル設定 > デバイス設定 > 自動回転に移動して、この機能を有効にします。

6.3 SuperIRの設定

このデバイスはライブビュー（一部のモデル）およびスナップショットで **[SuperIR]** をサポートしており、オブジェクトのアウトラインを強調して画像をより適切に表示できます。実際の効果は実際の製品によって異なります。

- ◆ ライブビュー：一部のモデルでは、SuperIR がオンのときにライブビューでオブジェクトのアウトラインを強調できます。
- ◆ 撮影した画像：SuperIR がオンになった後、画像内のオブジェクトのアウトラインが強調されます。

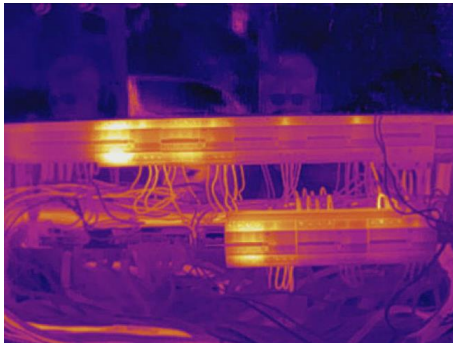
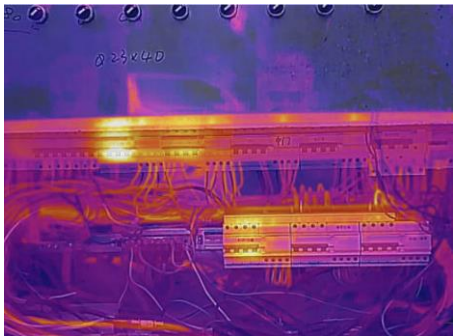
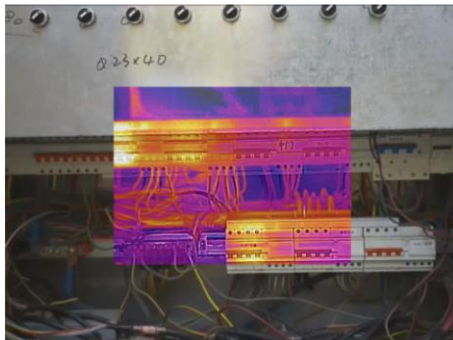
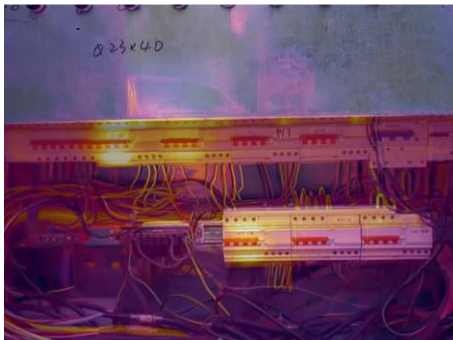
**注意**

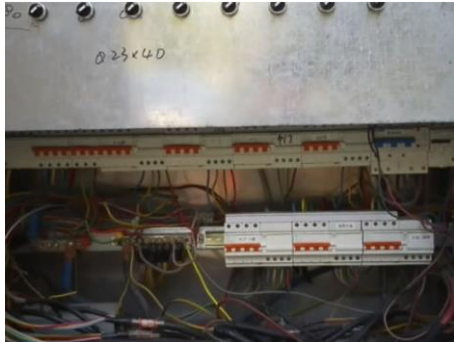
SuperIR はデフォルトでオンになっています。[ローカル設定] > [キャプチャ設定] > **[SuperIR]** に移動して、オフに切り替えます。

6.4 画像モードの設定

デバイスのサーマル/ビジュアルビューを設定できます。サーマル、融合、PIP、ブレンディング、およびビジュアルが選択可能です。

1. メニューをタップし、を選択します。
2. アイコンをタップして、画像モードを選択します。

画像モード	説明	例
 サーマル	サーマルモードでは、デバイスはサーマルビューを表示します。	
 融合	対象物のサーマル画像に輪郭を付ける。	
 PIP	PIP（ピクチャインピクチャ）モードでは、デバイスは可視光ビュー内にサーマルビューを表示します。PIPのサイズ、距離、デジタルズームを調整することができます。	
 ブレンディング	ブレンディングモードでは、デバイスはサーマルチャンネルとビジュアルチャンネルを混合したビューを表示します。ビジュアルとサーマルの比率を変更するには、ビジュアルとサーマルのレベルを選択します。	

画像モード	説明	例
 ビジュアル ル	対象物のビジュアル画像のみ。	

3. 戻るをタップして終了します。

6.5 レベルとスパンの調整

表示温度範囲を設定すると、パレットは範囲内のターゲットに対してのみ機能するようになります。表示温度範囲は調整することができます。

始める前に

適切なパレットを選択します。

- ◆ シーンモードがあるモデルの場合は、シーンを選択して、シーン設定インターフェイスで【パレット】をタップして、適切なものを選択します。
- ◆ シーンモードのないモデルの場合は、【メニュー】をタップして、を選択して、適切な項目を選択します。

1. 【メニュー】をタップし、を選択します。
2. 自動調整または手動調整を選択します。

 **自動**

を選択します。デバイスは、表示温度範囲を自動的に調整します。

 **手動**

- 1) 画面上のエリアタップする。領域の周囲に円が表示されます。領域の詳細情報ができる限り多く表示されるように、表示温度範囲が再調整されます。
- 2) 温度スケールの最小値/最大値をタップして、値をロックまたはロック解除します。

3) ホイールをスクロールし、最大温度と最低温度をそれぞれ微調整します。

4) OK をタップして終了します。

 注意

最小温度と最大温度の両方がロック解除されている場合、ホイールをスクロールすると、最小温度と最大温度が同時に調整されます。

6.6 デジタルズームの調整

1. ライブビューインターフェースをタップして、デジタルズームフレームを呼び出します。
2. デジタルズームフレームをタップします。
3. 必要に応じてデジタルズーム値を選択します。
4. 画面をタップして保存し、終了します。

6.7 オンスクリーン情報の表示

ローカル設定 > 表示設定に移動し、オンスクリーン情報の表示を有効にします。

- ◆ 時刻と日付：デバイスの時刻と日付です。
- ◆ パラメーター：目標の放射率、温度単位などの、温度測定パラメーターです。
- ◆ ブランドロゴ：ブランドロゴは画像上にメーカーロゴを重ね合わせたものです。
- ◆ 温度スケール：画面の左側にパレットバーと温度範囲を表示します。

第7章 マクロモードの設定

マクロモードでは、非常に小さな被写体に極端に接近してピントを合わせることができ、標準レンズに比べ、被写体を（最終的な画像でも）拡大してとらえることができます。

- ◆ シーンモードがあるカメラの場合、[ローカル設定]>[シーン]>[マクロモード] の順に移動して、必要に応じて関連パラメータを調整します。第3章 シーンモードで開始（該当する場合）を参照してください。
- ◆ シーンモードのないカメラの場合は、次の手順に従ってください。

始める前に

- ◆ この機能を使用する前にマクロレンズを取り付けます。詳しい操作法はマクロレンズのクイックスタートガイドを参照してください。
 - ◆ マクロレンズはパッケージに含まれていません。別途購入してください。
1. ローカル設定 > キャプチャ設定 > マクロモードを開きます。
 2.  をタップして機能を有効にします。

注意

- ◆ マクロモードを無効にすると、放射率だけが変更できます。距離、画像モード、測定範囲などのパラメータは変更できません。
- ◆ この機能を無効にすると、パラメーターは、以前の設定値に戻り、測定範囲は自動切り替えに設定されます。

第8章 写真と動画

デバイスはビデオを録画し、スナップショットを撮影することができます。ファイルはローカルアルバムに保存されます。



注意

- ◆ デバイスにメニューが表示されている間のキャプチャーまたは録画はサポートされていません。
- ◆ デバイスが PC に接続されている間のキャプチャーまたは録画はサポートされていません。
- ◆  をタップしてローカル設定 > デバイス設定 > デバイスの初期化に移動し、必要に応じてストレージを初期化します。

8.1 画像キャプチャー

ライブビューで  を押すと、スナップショットが撮影されます。暗い場所でスワイプダウンメニューからフラッシュライトを有効にすることができます。

必要に応じて、ローカル設定 > キャプチャ設定で、次のパラメーターを設定できます。

パラメータ	説明
SuperIR	◆ 撮影する前に SuperIR を有効にして、撮影した画像のオブジェクトのアウトラインを強調します。
可視画像の保存および可視画像解像度	◆ 別途可視画像を保存する必要がある場合は、まず 【可視画像解像度】 を設定し、 【可視画像の保存】 を有効にします。
キャプチャモード	◆ 1 枚の画像を撮影：  を 1 回押すと、1 枚の画像が撮影されます。 ◆ スケジュールキャプチャー：スケジュールキャプチャーの【間隔】（取得される各スナップショットの時間間隔）と【数】（1 つのロールで取得されるスナップショットの数、1～10,000 の範囲）を設定します。ライブビューで  を押すと、カメラは設定された間隔で設定された数

パラメータ	説明
	の画像を撮影します。  を再度押すと、撮影が停止します。
保存前に編集	1 枚の画像を撮影モードで、撮影した画像をすぐに編集する必要がある場合は、保存前に編集を有効にします。 ◆ テキストメモ：テキストメモを選択し、編集ページに移動します。画面をタップして内容を入力し、✓を押して保存します。 ◆ QR コードメモ： 1) QR コードメモをタップすると、デバイスはスキャンモードに移行します。 2) スキャンフレームを QR コードに向けます。デバイスはコードを読み取り、コード情報を保存します。 3) オプション: スキャンに失敗した場合は、プロンプトに従ってソフトウェアキーボードを使用してコード（アセット ID）を入力できます。
ファイル名ヘッダー	保存したファイルの命名ルールを設定します。デフォルトの画像の命名方法は、ファイル名ヘッダー + 保存時刻です。ファイル名ヘッダーは設定可能です。保存時刻は、保存が実行されたときのデバイスのシステム時刻です。
ファイル命名	ファイルには、タイムスタンプまたは番号付け（ファイル名のヘッダー + シーケンス番号）に基づいて名前を付けることができます。

 注意

- ◆ [1 枚の画像をキャプチャ] の場合、[保存前に編集] が有効でない場合、ライブ画像はフリーズし、デフォルトの保存アルバムに保存されます。[保存前に編集] が有効になっている場合、デバイスは画像編集インターフェイスに移動します。
- ◆ [スケジュールキャプチャー] の場合、ライブビューにカウンターが表示され、完了した撮影の枚数が示されます。

次にすべきこと

- ◆  をタップしてアルバムに移動し、ファイルとアルバムを表示および管理します。操

作手順については、8.3 アルバムの管理と 8.5 ファイルの管理を参照してください。

- ◆ 本器をPCに接続して、ローカルファイルをアルバムにエクスポートすると、その他の用途に使用することができます。8.6 ファイルのエクスポートを参照してください。

8.2 ビデオ録画

1. （オプション）ライブビューで、をタップして、[キャプチャ設定] > [音声録音] の順に移動して、ビデオ録画中のサウンドのオン/オフを切り替えます。
2. ライブビューインターフェイス上でを押し込んだ状態で保持すると、録画が開始されます。録画アイコンとカウントダウンがインターフェイスに表示されます。
3. 終了するには、を一度押して録画を停止します。録画されたビデオは自動的に保存されます。
4. オプション: ローカル設定 > キャプチャ設定に移動して、MP4 (.mp4) および放射測定ビデオ (.hrv) からビデオの種類を選択できます。

8.3 アルバムの管理

記録された画像/ビデオファイルはアルバムに保存されます。新しいアルバムの作成、アルバムの名前の変更、デフォルトアルバムの変更、アルバム間でのファイルの移動、およびアルバムの削除を行うことができます。

タスク	操作
新規アルバムの作成	1) をタップしてアルバムに移動します。 2) をタップして新規アルバムを追加します。 3) アルバム名を入力するためのソフトキーボードが表示されます。 4) をタップして終了します。
 注意 新しく作成されたアルバムはデフォルトの保存先アルバムになり、アルバムリストの一番上に表示されます。	

アルバムの名前変更

- 1)  をタップしてアルバムに移動します。
- 2) 名前を変更するアルバムを選択します。
- 3)  をタップして名前を変更を選択します。ソフトウェアキーボードが表示されます。
- 4)  をタップして古い名前を削除し、アルバムの新しい名前を入力します。
- 5)  をタップして終了します。

デフォルトの保存アルバムの変更

- 1)  をタップしてアルバムに移動します。
- 2) デフォルトの保存先アルバムとして使用するアルバムを選択します。
- 3)  をタップし、デフォルトの保存先アルバムとして設定を選択します。

**注意**

デフォルトの保存先アルバムはアルバムリストの一番上に表示されます。

アルバムの削除

- 1)  をタップしてアルバムに移動します。
- 2) 削除したいビデオを選択してください。
- 3)  をタップして削除を選択します。インターフェイス上にダイアログボックスが表示されます。
- 4) **OK** をタップしてアルバムを削除します。

**注意**

アルバムを削除すると、アルバム内のファイルも削除されます。必要なファイルは、他のアルバムに移動してください。手順については **8.5 ファイルの管理** を参照してください。

8.4 ファイルの表示

1.  をタップしてアルバムに移動します。
2. タップして目的のアルバムを選択します。
3. タップしてビデオまたはスナップショットを選択し、開きます。
4. 画像またはビデオをタップし、 をタップすると詳細情報が表示されます。

**注意**

- ◆ ファイルは時間順に並べ替えられます。一番新しいファイルが上に来ます。直近のスナップショットやビデオが見つからない場合、デバイスの日時設定を確認してください。手順については **10.1 時刻と日付の設定**を参照してください。ファイルを表示している時に、**<** または **>**をタップすると、他のファイルに切り替えることができます。
- ◆ キャプチャしたスナップショットまたはビデオに含まれる詳細については、PC 分析ツールをダウンロードしてインストールすることで分析できます。

8.5 ファイルの管理

記録したファイルを移動、削除、編集したり、ファイルにメモを追加することができます。

タスク	操作
ファイルの削除	1) をタップしてアルバムに移動します。 2) タップして削除するファイルが保存されているアルバムを選択します。 3) アルバム内でタップして、削除するファイルを表示します。 4) 画面をタップして下のメニューバーを表示して、をタップします。インターフェイス上にプロンプトボックスが表示されます。 5) OK をタップしてファイルを削除します。
複数ファイルの削除	1) をタップしてアルバムに移動します。 2) タップして削除するファイルが保存されているアルバムを選択します。 3) アルバム内で をタップして、削除するファイルを選択します。 4) をタップします。インターフェイス上にプロンプトボックスが表示されます。

タスク	操作
ファイルの移動	5) OK をタップしてファイルを削除します。 1)  をタップしてアルバムに移動します。 2) タップして移動するファイルが保存されているアルバムを選択します。 3) アルバム内でタップして、移動するファイルを表示します。 4) ファイルをタップして下のメニューバーを表示して、 を選択します。アルバムリストが表示されます。 5) タップして移動先のアルバムを選択します。
複数ファイルの移動	1)  をタップしてアルバムに移動します。 2) タップして移動するファイルが保存されているアルバムを選択します。 3) アルバム内で  をタップして、移動するファイルを選択します。 4)  をタップします。アルバムリストが表示されます。 5) タップして移動先のアルバムを選択します。
ファイルへのテキストメモの追加	1)  をタップしてアルバムに移動します。 2) タップして編集するファイルが保存されているアルバムを選択します。 3) アルバム内でタップして、編集するファイルを表示します。 4) 画面をタップして下のメニューバーを表示して、 をタップします。ソフトキーボードが表示されます。 5) 画面をタッチしてテキストメモを入力します。 6)  をタップして終了します。 次にすべきこと 編集した写真を開いて、テキストメモを表示できます。
ファイルへのQRコードメ	1)  をタップしてアルバムに移動します。

タスク	操作
モノの追加	2) タップして編集するファイルが保存されているアルバムを選択します。 3) アルバム内でタップして、編集するファイルを表示します。 4) 画面をタップして下のメニューバーを表示して、をタップします。スキャン枠が表示されます。 5) スキャンフレームを QR コードに向けます。デバイスはコードを読み取り、コード情報を保存します。 6) オプション: スキャンに失敗した場合は、プロンプトに従ってスクリーンキーボードを使用してコード情報（アセット ID）を入力します。

**注意**

をタップし、をタップして、アルバム内のすべてのファイルを選択/選択解除します。

8.6 ファイルのエクスポート

8.6.1 HIKMICRO Viewer経由でエクスポート（該当する場合）

1. HIKMICRO Viewer を起動し、デバイスを追加します。9.2 HIKMICRO Viewer へのデバイスの接続を参照してください。
2. アプリのデバイス上のファイルを選択して、デバイス上のアルバムにアクセスします。
3. ファイルを選択し、ダウンロードをタップしてローカルのアルバムに保存します。

8.6.2 PCを介してエクスポート

1. 付属の USB ケーブルを使用してデバイスを PC に接続し、デバイス上のプロンプトで USB ドライブモードを選択します。USB ドライブモードでは、スクリーンキャストはサポートされていません。
2. 検出されたディスクを開き、動画またはスナップショットをコピーして PC に貼り付

けて、ファイルを表示します。

3. PC からデバイスを取り外します。



注意

初回接続時にドライバーが自動的にインストールされます。

第9章 デバイス接続

デバイスを携帯電話やコンピューター上の特定のアプリケーションまたはソフトウェアクライアントに接続すると、携帯電話やコンピューター経由でカメラのリアルタイム画像を閲覧したり、ビデオを録画したり、スナップショットをキャプチャしたりできます。

9.1 デバイスのスクリーンをPCにキャスト

このデバイスは、UVCプロトコルベースのクライアントソフトウェアであるHIKMICRO Analyzerによる PC への画面キャストをサポートしています。デバイスのライブビューをPCにキャストしたり、スナップショットを撮ったり、クライアント経由でビデオを録画したりできます。

当社のWebサイト (www.hikmicrotech.com) をご覧いただくか、当社のテクニカルサポートまたはカスタマーサービスチームにお問い合わせいただいてインストールパッケージを入手し、HIKMICRO Analyzerをダウンロードしてインストールしてください。

具体的な接続方法や詳しい操作方法については、HIKMICRO Analyzer クライアントのユーザーマニュアルを参照してください。

9.2 HIKMICRO Viewerへのデバイスの接続

ホットスポットまたはWi-Fi経由でデバイスをHIKMICRO Viewerに接続すると、携帯電話で画像を表示したり、スナップショットをキャプチャしたり、ビデオを録画したりできます。

9.2.1 Wi-Fi経由の接続（該当する場合）

始める前に

以下のQRコードをスキャンし、お使いのスマートフォンにHIKMICRO Viewerをダウンロードしてインストールします。



Android



iOS

**注意**

- ◆ パスワードでスペースをタップしないでください。パスワードが正しく入力されない可能性があります。
- ◆  をタップして、パスワードフィールドにパスワードを入力してください。

1. お使いのデバイスを Wi-Fi ネットワークに接続してください。

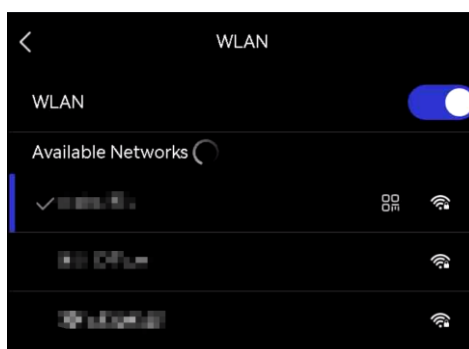
- 1) ライブビューで  をタップして、[接続] > [WLAN] に移動します。
- 2)  をタップして Wi-Fi を有効にすると、検知された Wi-Fi がリストされます。
- 3) 接続する Wi-Fi を選択します。ソフトキーボードが表示されます。
- 4)  をタップして設定を保存します。

2. デバイスを HIKMICRO Viewer に追加します。**◆ Wi-Fi パスワードの使用。**

- 1) 携帯電話でデバイスと同じ Wi-Fi ネットワークを選択し、パスワードを入力して参加します。
- 2) HIKMICRO Viewer を起動します。
- 3)  > [デバイスの追加] > [接続] をタップして、デバイスを追加します。

◆ Wi-Fi QR コードのスキャン。

- 1) デバイス上の接続された Wi-Fi の横にある  をタップして、Wi-Fi QR コードを表示します。
- 2) HIKMICRO Viewer を起動します。
- 3)  > [QR コードのスキャン] をタップして、スキャン枠をコードに合わせます。
- 4) スマートフォンのポップアップウィンドウで参加をタップして設定を確定します。



9.2.2 ホットスポット経由の接続（該当する場合）

始める前に

以下のQRコードをスキャンし、お使いのスマートフォンにHIKMICRO Viewerをダウンロードしてインストールします。



Android



iOS

1. ライブビューでをタップして、[接続]>[ホットスポット] の順に移動します。
2. をタップしてホットスポット機能を有効にします。ホットスポット名は、デバイスのシリアル番号の末尾 9 桁です。
3. デバイスのホットスポットを設定し、携帯電話に接続します。
 - ◆ ホットスポットパスワードの使用：
 - 1) [パスワードの設定] をタップします。ソフトキーボードが表示されます。
 - 2) 画面をタップして、ホットスポットにパスワードを設定します。
 - 3) をタップして終了します。
 - 4) スマートフォンで Wi-Fi 機能を有効にし、接続先のデバイスのホットスポットを検索します。
 - ◆ ホットスポット QR コードの使用：
 - 1) HIKMICRO Viewer を起動して、+>[QR コードのスキャン]をタップします。

- 2) スマートフォンのカメラをデバイスのホットスポットの QR コードに向けます。
- 3) スマートフォンのポップアップウィンドウで **[参加]** > **[接続]** をタップして設定を確定します。

**注意**

- ◆ パスワードでスペースをタップしないでください。パスワードが正しく入力されない可能性があります。
- ◆ パスワードは 8 桁以上で、数字と文字が含まれている必要があります。
- ◆  をタップして、パスワードフィールドにパスワードを入力してください。

第10章 システム設定

10.1 時刻と日付の設定

1. ローカル設定 > デバイス設定 > 時刻と日付を開きます。
2. 日付と時刻を設定します。
3. くをタップして保存し、終了します。



【ローカル設定】>【設定を表示する】に移動し、時刻と日付の表示のオン/オフを切り替えます。

10.2 単位の設定

ローカル設定 > 表示設定 > 単位に移動し、温度単位と距離単位を設定します。

10.3 言語を設定する

ローカル設定 > デバイス設定 > 言語に移動し、必要な言語を設定します。

第11章 メンテナンス

11.1 デバイス情報を表示

[ローカル設定]>[デバイス設定]>[デバイス情報] の順に移動して、デバイス情報を表示します。

11.2 デバイスのアップグレード

11.2.1 アップグレードファイルによるデバイスのアップグレード

始める前に

- ◆ 公式サイト <http://www.hikmicrotech.com> からアップグレードファイルをダウンロードしてください。もしくは、まずカスタマーサービスとテクニカルサポートに連絡してアップグレードファイル入手してください。
 - ◆ デバイスのバッテリーが満充電になっていることを確認してください。
 - ◆ 誤ってアップグレードが中断しないように、オートパワーオフ機能がオフになっていることを確認してください。
1. 付属の USB ケーブルを使用してデバイスを PC に接続し、デバイス上のプロンプトで USB モードとして **USB ドライブ** を選択します。
 2. アップグレードファイルを解凍してデバイスのルートディレクトリにコピーします。
 3. PC からデバイスを取り外します。
 4. デバイスを再起動すると、自動的にアップグレードされます。アップグレードのプロセスがメインインターフェイスに表示されます。



注意

アップグレード後、デバイスは自動的に再起動します。現在のバージョンは、[ローカル設定]>[デバイス設定]>[デバイス情報] で確認できます。

11.2.2 HIKMICRO Viewerを介してデバイスをアップグレード

始める前に

お使いのスマートフォンにHIKMICRO Viewerがインストールされていることを確認してください。手順については、**9.2 HIKMICRO Viewerへのデバイスの接続**を参照してください。

1. スマートフォンで HIKMICRO Viewer を起動します。
2. デバイスをアップグレードします。次のパスの1つを選択できます。
 - ◆ ホーム画面で、[デバイスアップグレード]>[アップデートの確認] をタップします。
 - ◆ ホーム画面で、[デバイス情報]>[デバイスアップグレード]>[アップデートの確認] をタップします。

11.3 デバイスの復元

[デバイス設定]>[デバイスの初期化]>[デバイスの復元] を開き、デバイスを初期化して、デフォルト設定を復元します。

11.4 操作ログを保存

デバイスは、トラブルシューティングの目的でのみ、操作ログを収集し、ストレージに保存できます。この機能は、ローカル設定 > デバイス設定 > ログを保存でオン/オフを切り替えることができます。

付属のUSBケーブルを使用してカメラをPCに接続し、必要に応じてカメラのUSBモードとして、[USBドライブ] を選択して、カメラのルートディレクトリに操作ログ（.log）をエクスポートできます。

11.5 ストレージのフォーマット

初めて使用する前にストレージをフォーマットしてください。

をタップし、デバイス設定 > デバイスの初期化 > ストレージのフォーマットに移動して、デバイスメモリを初期化します。

11.6 キャリブレーションについて

メンテナンスポイントに関する情報については、最寄りの販売店にお問い合わせください。より詳細な較正サービスについては、 <https://www.hikmicrotech.com/en/support>を参照してください。

第12章 FAQ

以下のQRコードをスキャンすると、デバイスに関するよくある質問をご覧ください。



法的情報

© Hangzhou Microimage Software Co., Ltd. 禁・無断複製。

本マニュアルについて

本マニュアルには製品の使用および管理についての指示が含まれています。ここに記載されている写真、表、画像およびその他すべての情報は説明のみを目的としています。本マニュアルに含まれる情報は、ファームウェア更新やその他の理由で通知なく変更されることがあります。このマニュアルの最新版は、HIKMICRO Webサイト

(<http://www.hikmicrotech.com>) でご確認ください。

本マニュアルは、本製品をサポートする訓練を受けた専門家の指導・支援を受けた上でご使用ください。

商標

 **HIKMICRO** およびその他のHIKMICROの商標とロゴは、様々な裁判管轄地域におけるHIKMICROの所有物です。

言及されているその他の商標およびロゴは、各権利保有者の所有物です。

免責事項

適用法で認められる最大限の範囲で、本マニュアルおよび説明されている製品(ハードウェア、ソフトウェア、ファームウェアを含む)は、[現状のまま]および[すべての欠陥とエラーがある]状態で提供されます。HIKMICROでは、明示あるいは黙示を問わず、商品性、満足の品質、または特定目的に対する適合性などを一切保証しません。本製品は、お客様の自己責任においてご利用ください。HIKMICROは、本製品の利用に関連する事業利益の損失や事業妨害、データの損失、システムの障害、文書の損失に関する損害を含む特別、必然、偶発または間接的な損害に対して、それが契約に対する違反、不法行為(過失を含む)、製品の責任または製品の使用に関連するものであっても、たとえHIKMICROがそうした損害および損失について通知を受けていたとしても、一切の責任を負いません。

お客様は、インターネットにはその性質上固有のセキュリティリスクがあることを了解し、異常動作、プライバシーの流出、またはサイバー攻撃、ハッカー攻撃、ウィルス感染

等のインターネットセキュリティリスクによる損害について、HIKMICROは一切責任を負いません。ただし、必要に応じてHIKMICROは適時技術的サポートを提供します。

お客様には、すべての適用法に従って本製品を利用し、さらにご自分の利用法が適用法を順守していることを確認する責任があります。特に、肖像権、知的財産権、またはデータ保護等のプライバシー権を非限定的に含むサードパーティの権利を侵害しない手段で本製品を利用する責任があります。大量破壊兵器の開発や生産、化学兵器・生物兵器の開発や生産、核爆発物や危険な核燃料サイクル、または人権侵害に資する活動を含む、禁じられている最終用途の目的で本製品を使用してはなりません。

本マニュアルと適用法における矛盾がある場合については、後者が優先されます。

規制情報

これらの条項は、対応するマークまたは情報が付された製品にのみ適用されます。

EU 適合宣言



本製品および付属のアクセサリ（該当する場合）は「CE」マークが付いておりますが、これは指令2014/30/EU (EMCD)、指令2014/35/EU (LVD)、指令2011/65/EU (RoHS) にリストされた該当欧州統一規格に準拠していることを示しています。

Hangzhou Microimage Software Co., Ltd.では、本デバイス（ラベルを参照）が指令2014/53/EUに適合していることをここに宣言します。

EU適合宣言書の全文は、以下のインターネットアドレスから入手いただくことができます。

<https://www.hikmicrotech.com/en/support/download-center/declaration-of-conformity/>

5 GHz帯での制限：

指令2014/53/EUの第10条（10）によると、次の地域では、5150～5350MHzの周波数帯でのこのデバイスの操作は屋内での使用に制限されています。オーストリア（AT）、ベルギー（BE）、ブルガリア（BG）、クロアチア（HR）、キプロス（CY）、チェコ（CZ）、デンマーク（DK）、エストニア（EE）、フィンランド（FI）、フランス（FR）、ドイツ（DE）、ギリシャ（EL）、ハンガリー（HU）、アイスランド（IS）、アイルランド（IE）、イタリア（IT）、ラトビア（LV）、リヒテンシュタイン（LI）、リトアニア（LT）、ルクセンブルグ（LU）、マルタ（MT）、オランダ（NL）、北アイルランド（UK（NI））、ノルウェー（NO）、ポーランド（PL）、ポルトガル（PT）、ルーマニア（RO）、スロバキア（SK）、スロベニア（SI）、スペイン（ES）、スウェーデン（SE）、スイス（CH）、およびトルコ（TR）。

RF曝露情報

このデバイスはテスト済みで、無線周波数（RF）暴露の適用制限を満たしています。

周波数帯および電力（CE用）

以下の無線装置に適用される周波数帯域、モード、通信出力（放射および/または伝導）の公称値の許容範囲は次のとおりです。

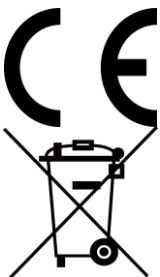
Wi-Fi：2.4 GHz (2.4 GHz～2.4835 GHz)：20 dBm、5 GHz (5.15 GHz～5.25 GHz)：23 dBm、5 GHz (5.25 GHz～5.35 GHz)：23 dBm、5 GHz (5.47 GHz～5.725GHz)：23 dBm、5 GHz (5.725 GHz～5.875 GHz)：14 dBm

付属の電源アダプターがない場合は、デバイスに認定メーカーが供給する電源アダプターをご使用ください。電源の詳細な要件については、製品仕様を参照してください。

付属のバッテリーがない場合は、デバイスに認定メーカーが供給するバッテリーをご使用ください。バッテリーの詳細な要件については、製品仕様を参照してください。



指令2012/19/EU（WEEE 指令）：この記号が付いている製品は、欧州連合（EU）の地方自治体の未分別廃棄物として処分できません。適切にリサイクルするために、本製品は同等の新しい装置を購入する際に、お近くの販売業者に返却いただくか、指定された収集場所で処分してください。詳細については以下を参照してください：www.recyclethis.info



規制（EU）2023/1542（バッテリー規制）：この製品にはバッテリーが含まれており、規制（EU）2023/1542 に準拠しています。バッテリーは、欧州連合（EU）の地方自治体の未分別廃棄物として処分できません。特殊バッテリー情報に関する製品資料をご覧ください。バッテリーにはこの記号が付いており、カドミウム（Cd）、鉛（Pb）を示す文字も記載されています。適切にリサイクルするために、販売業者か、指定された収集場所にご返却ください。詳細については以下を参照してください：www.recyclethis.info.



See the World in a New Way

 Hikmicro Industrial

 support@hikmicrotech.com

 HIKMICRO Industrial

 hikmicro_industrial

 HIKMICRO

 <https://www.hikmicrotech.com/>